

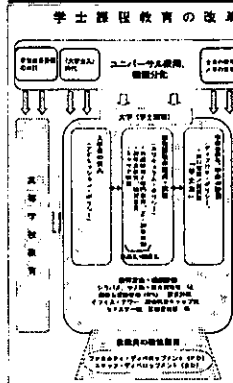
私立大学における 大学入学者選抜の現状と課題

公開シンポジウム:大学全入時代における
これからの大学入学者選抜制度の在り方

平成21年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会
平成21年5月20日

日本私立大学連盟教育研究委員会委員長
東海大学教授 松本 亮三

I. 中教審答申(案)に見る質保証と高大接続(1)



平成20年 中教審答申
『学士課程教育の構築に向けて』

審議のまとめ: 平成20年3月
答申案: 平成20年10月

- ①学位授与の方針
国際水準を意図し、ラーニング・アウトカムを重視した学位授与
- ②教育課程編成・実施の方針
教育課程の体系化、単位制度の実質化
学生を本気で学ばせ、社会に通用する力をつける。
⇒各分野共通の「学主力」
分野別の質保証の枠組み
- ③入学者の受け入れ方針
高大接続の見直し。
高等学校の出口管理と、大学入試の改善
⇒「高大接続テスト」(仮称)の導入

「大学全入」時代における高等学校と大学との接続について

＜高大接続とは＞
大学進学希望者が大学進学から大学進学への円滑な移行ができるよう、高校・大学の両方で必要となること。
(高校)
大学進学を希望する学生の学習状況に適切に対応し、進路指導を行う。
大学進学希望者の学習状況に適切に対応し、進路指導を行う。
(大学)
大学進学希望者の学習状況に適切に対応し、進路指導を行う。
大学進学希望者の学習状況に適切に対応し、進路指導を行う。

＜「大学全入」時代での高大接続の基本的考え方＞
①大学進学希望者の学習状況に適切に対応し、進路指導を行う。
②大学進学希望者の学習状況に適切に対応し、進路指導を行う。
③大学進学希望者の学習状況に適切に対応し、進路指導を行う。
④大学進学希望者の学習状況に適切に対応し、進路指導を行う。

＜高校・大学の学習状況＞
①高校の現状
大学進学希望者の学習状況に適切に対応し、進路指導を行う。
②大学の現状
大学進学希望者の学習状況に適切に対応し、進路指導を行う。

＜一人ひとりの学力を伸ばす＞
大学進学希望者の学習状況に適切に対応し、進路指導を行う。
大学進学希望者の学習状況に適切に対応し、進路指導を行う。

＜高校の教育・科目の充実＞
大学進学希望者の学習状況に適切に対応し、進路指導を行う。
大学進学希望者の学習状況に適切に対応し、進路指導を行う。

＜大学入試の改革＞
大学進学希望者の学習状況に適切に対応し、進路指導を行う。
大学進学希望者の学習状況に適切に対応し、進路指導を行う。

改善方策 (中央教育審議会大学分科会「学士課程教育」高大接続WGのまとめ)

＜改善方策＞
①大学進学希望者の学習状況に適切に対応し、進路指導を行う。
②大学進学希望者の学習状況に適切に対応し、進路指導を行う。
③大学進学希望者の学習状況に適切に対応し、進路指導を行う。
④大学進学希望者の学習状況に適切に対応し、進路指導を行う。

＜改善方策＞
①大学進学希望者の学習状況に適切に対応し、進路指導を行う。
②大学進学希望者の学習状況に適切に対応し、進路指導を行う。
③大学進学希望者の学習状況に適切に対応し、進路指導を行う。
④大学進学希望者の学習状況に適切に対応し、進路指導を行う。

II. 私大連盟の報告書からみる質保証と高大接続

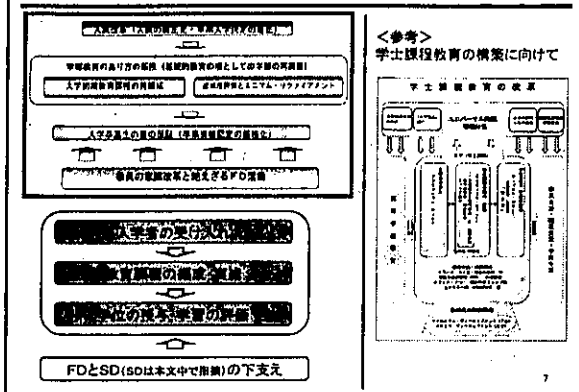
1. 中教審の審議に先立って、日本私立大学連盟教育研究委員会は、平成14～15年度、教育研究分科会を中心に、審議・研究を行い、以下の報告を上梓した。

- ①『日本の高等教育の再構築に向けてⅠ』—その課題を問う—(平成15年3月)
- ②『日本の高等教育の再構築に向けてⅡ』:16の提言《大学生の質の保証—入学から卒業まで》(平成16年3月)

2. その後の活動

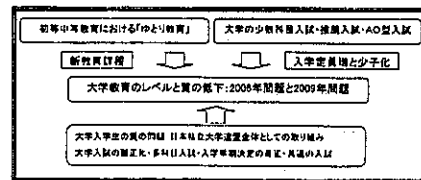
- ①『初年時教育の組織的展開に向けて』(平成19年3月)
- ②『私立大学入学者の学力保障—大学入試の課題と提言—』(平成20年3月)
- ③『学士課程教育の質向上を目指して』(平成21年3月)

II-1-1.『高等教育の再構築』の基本的スキーム



II-1-2.『高等教育の再構築』入試改革

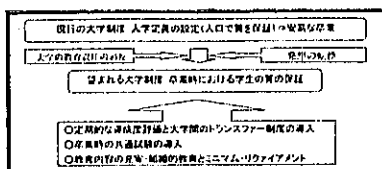
I. 入試改革：入学者選抜の改善



- 【提言1】大学入試センター試験の活用に向けた改善
(高校卒業時の共通試験)
- 【提言2】成績調査書の活用
(推薦入試・AO型入試の入学者の質保証の仕組み)
- 【提言3】日本私立大学連盟全体の方向性の策定
(「入試科目の増加」・「入学決定を過度に早期化しない」など協約の制定)

II-1-3.『高等教育の再構築』卒業時の質保証から

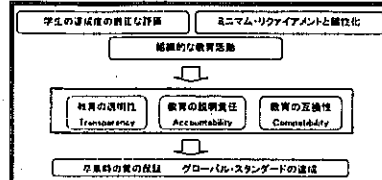
II. 入学時の質の保証から卒業時の質の保証へ



- 【提言4】入口管理から出口管理へのパラダイムシフト：卒業資格認定の厳正化
(卒業時に社会から選ばれる人材を輩出するため)
- 【提言5】定期的な達成度評価と柔軟な大学間トランスファー制度の導入
(学生の個性や達成度に見合った秘密な指導体制)
- 【提言6】卒業時の共通試験の導入
- 【提言7】教育内容の充実：組織的教育の推進と共通のミニмум・リクワイアメント
- 【提言8】「卒業定員」の設定(最低限の卒業生数の目標化・安易な卒業の防止)

II-1-4.『高等教育の再構築』学生の達成度評価

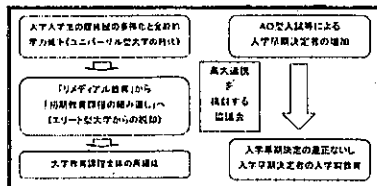
III. 学生の達成度評価とミニмум・リクワイアメントの標準化



- 【提言9】各研究・教育分野でのミニмум・リクワイアメントの策定
(グローバル化へ対応。大学間の共同事業。各大学の個性化も必要)
- 【提言10】厳正な成績評価体制の確立
(グローバル・スタンダードの達成。評価者間の一致率を高める施策)
- 【提言11】大学教育の組織的な取り組み
(社会からの大学教育に対する認知を高める。各大学、大学間での組織的教育の標準化)

II-1-5.『高等教育の再構築』高大連携の必要性

IV. 大学初期教育課程の再編と入学前教育 ーリメディアル教育からの転換



- 【提言12】高大連携協議会の設置
(後期中等教育と大学教育の実質的で円滑な接続を図る)
- 【提言13】入学前教育の施行
(AO型入試・推薦入試の合格者を、円滑に大学教育に移行させる)
- 【提言14】大学(初期)教育課程の再編
(リメディアル教育という概念を離れ、現実の入学に適合した正規の教育プログラムを構築する)

II-2.『入学生の学力保障』の提言

『私立大学入学生の学力保障—大学入試の課題と提言』(平成20年3月) 提言番号

- ① 少数科目入試の見直し。幅広い基礎学力を計る制度設計を行う。
- ② AO入試は、アドミッション・ポリシーに合致する学生獲得の制度とする。
- ③ 推薦入試は、真に推薦に値する学生のみを対象とする。
- ④ 各種入試制度を整理統合し、基礎学力評価において複数のスタンダードが生じないようにする。
- ⑤ センター試験、あるいは別の「共通試験」を取り入れた入試制度設計を行う。入試問題作成の教員負担、複数受験を強いられる受験者負担の軽減。日本の高等教育全体の学力保障の推進。
- ⑥ 学校教育法施行規則改正を要請し、AO職員による入学者選抜が行える体制を作る。
- ⑦ 将来的にはAOによる入学者選抜に切り替えることを視野に入れ、共通試験、高校のGPAを学力担保の標準とした、日本式入試制度を考案する。
- ⑧ ヨーロッパ型の大学入学資格試験に見られる学力保障の合理性に鑑み、高等学校卒業資格校定試験の導入を図るよう、文部科学省に要請し、これに対応した各大学の入試体制を検討する。

Ⅲ. 私大連盟と団体連合会の「質保証」現状調査

1. 私立大学連盟「学士課程教育の「質の保証」プロジェクト」

平成20年3月28日にプロジェクト開始：36大学226学部に対してアンケート調査（予備調査）を行う。回収数 33大学（91.7%） 197学部（87.2%）

2. 私立大学団体連合会「質保証の共同作業部会」

平成20年8月18日にプロジェクト開始：日本私立大学連盟、日本私立大学協会、日本私立大学振興協会加盟の517大学に対してアンケート調査を行う。回収数 441大学（85.3%）

目的（検討課題）

- ▶多様な大学教育の「質の保証」に向けた指標の開発
- ▶大学教育における「質」の定量的測定の可能性の検討
（入学前学力に対して卒業時学力をいかに高めるか、などについて、具体的な数値目標やベンチマークを掲げ、その達成度を常に検証できるようにする）
- ▶私立大学の多様な教育を評価し、個々の大学がその強みや課題を把握する一助とする
- ▶私立大学が協議して教育の質の保証を行い、私立大学の質を高め、これを国や社会にアピールすることで、私学助成など公財政支出の増加を図る
- ▶私立大学教育全体の改善・強化に資する

13

Ⅲ-1. アンケート調査の概要

(I) 大学・学部（学科）の教育方針・目標	Q1-5 (選択4、記述5)	Q12 (執筆あり) (選択4、記述0+2)
(II) 入学者選抜と初年次教育	Q6-12 (執筆あり) (選択9、記述9)	Q3-6 (執筆あり) (選択13、記述1+5)
(III) 教育内容・方法など 1. 教育課程の編成 2. 教育方法	Q13-24 (執筆あり) (選択18、記述17)	Q9-15 (執筆あり) (選択9、記述2+2)
(IV) 学習成果の評価	Q25-29 (執筆あり) (選択8、記述8)	Q16-20 (執筆あり) (選択8、記述1+4)
(V) 卒業の認定と学位の授与	Q30-34 (選択5、記述5)	Q21-25 (執筆あり) (選択8、記述0+3)
(VI) 教育改善・教育の質の保証に関するシステム 1. FD:教員の職能開発 2. 「質の保証」、3. 今後の展開	Q35-44 (選択7、記述9)	Q26-30 (執筆あり) (選択9、記述2+5)
総計	(選択50、記述53)	(選択51、記述6+19)

団体連合会調査の質問数のうち、記述の項は、【記述式質問数+選択式質問中「その他」の数】で示した。

14

Ⅲ-2. 入学者選抜と初年次教育①（私大連盟予備調査）

（入学者選抜方法）

Q6 貴学部では多様な入学者選抜方法が実施されていると思いますが、それらは貴学部の教育方針・目標とのかかわりにおいて、適切ですか。

1. 適切である	2. ある程度適切である	3. あまり適切ではない	4. 適切ではない	回答数	割合
96	85	5	0	196	1
49.0%	43.4%	2.6%	0.0%	100.0%	0.5%

（推薦入試・AO入試等での学力把握）

Q7 Q6で学力調査を伴わない入試（推薦入試やAO入試）を行っている」と回答された場合、貴学部（学部）教育に必要な学力や能力の把握は実施されていますか。

1. 行われている	2. ある程度行われている	3. あまり行われていない	4. 行われていない	回答数	割合
71	96	13	12	192	5
37.0%	50.0%	6.8%	6.2%	100.0%	2.5%

【Q6】適切であるとしているのは、97.5%。入試形態は、付属・一貫教育校推薦入試、指定校推薦入試、帰国子女入試、AO入試、社会人自己推薦入試、同窓会推薦入試、スポーツ推薦入試、センター入試、センター併用マルチ入試、企業推薦入試など多様。【Q7】87.0%が学力調査を伴わない入試でも、学力把握が行われていると回答。多くの場合出願時の調査書調査と、面接、エッセイ、グループディスカッション等にとどまっている。積極的に学力を調査している大学は少ない。多くの学部が学力把握の方法として入学前教育をあげているが、入学時の学力担保とは言い難い。

15

Ⅲ-2. 入学者選抜と初年次教育②（団体連合会調査）

（アドミッション・ポリシー）

Q3 貴学のアドミッション・ポリシーは、進学の理念や教育方針・目標との関わりで適切に定められていますか。

1. 適切に定めている	2. ある程度適切に定めている	3. 定めているが、あまり適切とはいえない	4. 定めていない	回答数	割合
263	138	10	29	440	4
60.2%	31.4%	2.3%	6.6%	100.0%	99.8%

（AO入試等での学力把握）

Q4-1 学力調査を主体としない入試（AO入試や各種推薦入試）において、入試時の学力の把握は実施されていますか。

1. 行われている	2. ある程度行われている	3. あまり行われていない	4. まったく行われていない	回答数	割合
107	243	57	29	436	4
24.7%	55.7%	13.1%	6.7%	100.0%	99.8%

【Q4-2】私大連盟予備調査でもそうであったが、入学前教育を学力把握の方法とする回答が、「その他」で増加した。入学前教育は学力把握にはならないことを確認すべきであろう。

16

Ⅱ-2-3. 入学者選抜と初年次教育③（団体連合会調査）

（一般入試での学力把握）

Q5-1 学力調査を主体とする入試（一般入試）における貴学の入試科目数は新入生の学力を把握する上で適切ですか。

1. 適切である	2. ある程度適切である	3. あまり適切ではない	4. 適切ではない	回答数	割合
154	282	24	0	460	4
35.0%	59.5%	5.5%	0.0%	100.0%	99.5%

Q5-2 貴学の一般入試科目数は何科目ですか。学部によって異なる場合は最も一般的な科目数をお答えください。

1. 5科目以上	2. 4科目	3. 3科目	4. 2科目以下	回答数	割合
15	29	190	206	440	4
3.4%	6.6%	43.2%	46.8%	100.0%	99.8%

Q5-3 一般に大学入学者の学力を把握するためには、入試科目は何科目が適正だとお考えですか。

1. 5科目以上	2. 4科目	3. 3科目	4. 2科目以下	回答数	割合
53	87	264	51	455	4
12.1%	19.3%	58.2%	12.1%	100.0%	99.2%

一般入試については、94.5%が適切としており、科目数は3科目以下である。しかし、Q5-3に示される通り、現状よりも科目数を増加させるほうが適正であると考えられる傾向がある。

17

Ⅲ-2. 入学者選抜と初年次教育④（私大連盟予備調査）

（入学者選抜の前提条件）

Q9 貴学部における入学者選抜に際して、問題があるとお考えですか。

1. 大きな問題がある	2. 多少の問題はある	3. ほとんど問題はない	4. 問題はない	回答数	割合
5	65	80	14	164	3
2.5%	44.2%	45.8%	7.2%	100.0%	2.5%

（リメディアル教育）

Q10-1 現状において、高等学校での履修状況に配慮した取組として、入学した学生の学力の実情に応じた入学初期段階におけるリメディアル教育（補習教育）の必要性はあるとお考えですか。

1. 適切に必要性を感じている	2. ある程度必要性を感じている	3. ほとんど必要性を感じていない	4. まったく必要性を感じていない	回答数	割合
28	101	63	5	197	4
12.2%	51.8%	32.2%	2.6%	100.0%	1.0%

選択式回答では、入学者選抜方法が適切（97.5%）、推薦入試・AO入試も学力把握がなされており（87.0%）、一般入試の科目数設定（Q8）も88.9%が適切と回答しているが、【Q9】入学者選抜の問題点については、46.9%が何らかの問題を感じており、【Q10】リメディアル教育の必要性も、程度の差があるとしても65.1%が認めている。

入学者選抜について指摘されている問題は、多様な入試を実施することで学生の学力差が顕著になっていること、入試科目数が少ないため学部教育に必要な基礎知識をもたない入学者がいることである。後者の問題は、医歯系、理工系、経済・商学系で深刻であり、数学、物理、化学などでリメディアル教育が実施されている。しかし、学部全体での体系的な実施の例、単位化されている例は少ない。

18

Ⅲ-2. 入学者選抜と初年次教育⑤(団体連合会調査)

(入学者選抜の問題点)

Q6-1 貴学における入学者選抜に関して、問題があるとお考えですか。

- 1 大きな問題はある
- 2 多少の問題はある
- 3 ほとんど問題はない
- 4 問題はない

	1	2	3	4	合計
件数	11	153	216	17	437
割合	2.5%	44.2%	49.4%	3.9%	100%

- 【Q6-2】記述回答195校から回答があった。具体事例は以下のとおり。
- ①多様な入試方法を実施しているため、最終的な合格者の質が異なる。
 - ②AO入試や推薦入試の比率が大きくなり、学力が担保できていない。
 - ③一般入試が少数科目入試であり、大学で必要な学力担保が行えない。
 - ④選抜機能の低下・定員確保が優先されるため、一定の学力がない学生を入学させるをえんい(AO入試や推薦入試の比率増大に際する問題として一般的であり、また、ほとんど全入とせざるを得ず、入学試験が形をなしていないとの回答もある)
 - ⑤多様な入試による入学者の学力のばらつきが大きい。
 - ⑥自校で入学試験を作ることで、出願者の負担が大きい。
 - ⑦高校の調査書の算定平均の学校間格差が大きく、資料として使いにくい。

(注)この点に関しては、予備調査で明らかにした以上に深刻な状況が顕著にみられている。(予備調査報告Q-9の項目と比べ)。(赤字は予備調査の主な回答と共通するもの)

19

Ⅲ-2. 入学者選抜と初年次教育⑤(団体連合会調査)

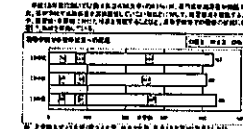
(リメディアル教育)

Q7-1 入学初期段階におけるリメディアル教育(補習教育)は、実施されていますか。

	1 全学的に実施している	2 一部の学部・学科のみで実施している	3 一部の学部・学科のみで実施している	4 実施していない	合計
件数	129	31	133	146	439
割合	29.4%	7.1%	30.3%	33.2%	100%

参考：文部科学省報道発表(平成18年度の改革状況)の関連項目

<高等学校での初年次教育への対応>



【予備調査】予備調査の結果、リメディアル教育の実施状況は以下の通りである。

実施状況	件数	割合
全学的に実施している	129	29.4%
一部の学部・学科のみで実施している	31	7.1%
一部の学部・学科のみで実施している	133	30.3%
実施していない	146	33.2%

文部科学省 報道発表(平成20年8月3日)「大学における初年次教育等の改革状況について」より

20

Ⅲ-2. 入学者選抜と初年次教育⑥(私立大学連盟予備調査)

(初年次教育)

Q11-1 貴校において、高等学校や他大学からの同様な移行を支援し、大学における学問的・社会的な適応を促進させるため、主に新入生を対象とした総合的な教育プログラムとしての初年次教育(導入教育)の必要性はあるとお考えですか。

	1 絶対に必要性を感じている	2 ある程度の必要性を感じている	3 ほとんど必要性を感じていない	4 まったく必要性を感じていない	合計
件数	82	99	14	1	196
割合	41.8%	50.5%	7.1%	0.5%	100%

Q11-2 初年次教育を実施されている学部・学科に測定されていますか。

	1 的確である	2 ある程度の的確である	3 あまり的確ではない	4 的確ではない	合計
件数	17	82	30	9	138
割合	12.3%	59.4%	21.7%	6.5%	100%

【Q11-1】ほとんどの大学で、初年次教育の必要性を感じており(1と2の回答合計が92.3%)、「基礎演習」、「フレッシュマンセミナー」、「入門ゼミ」、「ファーストイヤーセミナー」など多様な名称で実施されている。内容は、高大の教育内容の接続を意識し、大学での学習の仕方、大学での学問と社会との関わり、読解力・作文力の養成、文献検索、プレゼンテーションの方法の教授などである。

【Q11-2】効果の測定は、71.7%が的確としているが、記述回答を見る限り感覚的判断であって、測定方法が未確立の場合が多い。学生のアンケートを実施したり、個別面談で成果を確認したりする例はある。効果の測定に関してはリメディアル教育も同じ傾向にある。

21

Ⅲ-2. 入学者選抜と初年次教育⑦(団体連合会調査)

(初年次教育)

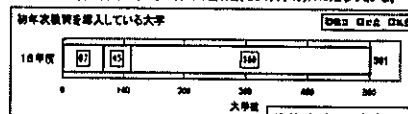
Q6-1 貴学では高等学校からの同様な移行を支援し、大学における学問的・社会的な適応を促進させるため、新入生を対象とした総合的な教育プログラムである初年次教育(導入教育)を実施されていますか。

	1 全学的に実施している	2 一部の学部・学科のみで実施している	3 一部の学部・学科のみで実施している	4 実施していない	合計
件数	283	44	53	61	441
割合	64.2%	10.0%	12.1%	13.8%	100%

参考：文部科学省報道発表(平成18年度の改革状況)の関連項目

<初年次教育の実施状況>

初年次教育を実施する大学は、平成18年度現在、501大学(約11%)となっている。



実施率は、国立大学 77.0%
公立大学 59.2%
私立大学 68.6%

22

Ⅳ. 入学者選抜の課題①

大学教育の実情：教養教育・専門教育ともに困難

入学者選抜・リメディアル教育、初年次教育(内容は高校教育の補完)の拡大。

- (1) 高校教育の問題(教育内容の縮減、基本的知識・思考力不足)。
- (2) 私立大学の少数科目入試。
- (3) 学力保障のない入学者選抜の比率の増加(AO・推薦入試)。

入学者選抜方法の改善を阻む問題

- (1) 各大学独自の多科目入試は導入できるか？
⇒(特に中小規模大学で)出願者確保が困難・教員負担増大。
(少子化における競争で)独自に行えない。
学力試験が機能していない大学・学部も多い。
- (2) AO・推薦などへ各大学独自の学力試験が導入できるか？
⇒独自に行うのは競争力の高い少数の大学のみ。
(少子化における競争で)独自に行えない。

23

Ⅳ. 入学者選抜の課題②

解決策の模索：共通テストの導入

【基本認識】各大学が独自の学力試験を行う体制は、再構築できない

学力保障(誰か?)のできる共通テスト(高次接続テスト)を一旦に導入する。
将来的には、AO(型)入試に切り替えて、入学者選抜のスタンダードを一元化。

(問題)大学の一元化のランキン化の危機にどのように対応するか？

- ① 共通テストをアカリカ的に利用。
- ② Admission Officeを充実化して、共通テスト以外の選抜要件を付加。
- ③ 入口ではなく、Learning Outcomeで大学を評価する世論形成。
——など、種々の対応策を検討——

最重要課題：高校と大学がそれぞれの教育責任を全うすること

高等学校と大学が、入口と出口の管理を厳格に行い、それぞれの教育内容を責任をもって構築し、かつそれを実践すること。
—日本の高等教育の再構築に向けて【Ⅱ】(平成16年)ですでに提言—



共通テスト(高次接続テスト)実施の理念

24